

平成 29 年度第 1 回
豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会議事概要

日時：平成 29 年 6 月 20 日（火）
午前 10 時～11 時 50 分
場所：豊能町役場大会議室

○午前 10 時開会

【1】あいさつ・全員出席による会の成立の確認及び傍聴承認（1 名）

【2】出席者紹介・資料確認

【3】議事（報告）

- 1 人口動向について（平成 27 年国勢調査集計から）（資料 2 p1～2 により説明）
- 2 まち・ひと・しごと創生総合戦略 H28 年度の取り組み（3 と併せ、資料 2 p3～10 により説明）
- 3 新しい動き・これからの動き

【4】その他（なし）

○午前 11 時 50 分閉会

※事務局より委員の任期満了に伴う更新手続きを依頼（後日送付）

平成 29 年度第 1 回まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会主な意見の整理

1 人口動向について（平成 27 年国勢調査集計から）

（委員）

- ・平成 27 年の国勢調査から 2 年たっている。その後の傾向はどのようになっているか
- ・北摂ブランドがあっても厳しさがあるとのこと。要因はどこにあるのか
- ・人口ビジョンとのかい離があるとのことだが、どの年齢層が要因となっているのか

（事務局）

- ・本町の場合、国勢調査数値と住民基本台帳数値にかい離があり、国勢調査数値が少ない。住民票は町にあるが、他地域に住んでいることが要因と考えられる。そのため、今回、平成 28 年以降の数値の整理はしていないが、減少の傾向は変わらない
- ・要因については、後ほどの説明にも出てくるが、交通や日常生活の利便性の低さにあると思われる。たとえば、川西市でも全体ではそれほど人口が減っていないが、北部地域は減少し、利便性の高い川西能勢口周辺や清和台は増加傾向にあり、児童数も違いが出ていると聞く
- ・人口ビジョンとのかい離は整理できていない。人口ビジョンではこれまでの合計特殊出生率の傾向、社会増減の傾向から推計を算出している。合計特殊出生率の最新の数値が出ていないので比較が難しいが、それらの係数の変化が影響していると思われる

2 まち・ひと・しごと創生総合戦略 H28 年度の取り組み／3 新しい動き・これからの動き

（1）説明内容全般について（プランと地域の動きとの連携、共有、つなぎについて）

（委員）

- ・説明内容について、どこで、だれが担ってやっているのかということがわからず、机上の空論にしか思えない。実際の担い手、すでに活動している人たちが議論していけばよい
- ・若い人たちは Facebook を通じて地域外から人が集まってくる。そのような人たちを活用していけばよい

（委員）

- ・シティプロモーションの範囲が漠然として広い

- ・吉川では地域の交流人口を増やしていく取り組みを進めている。そのほかの地域でどういう動きをしているのか、分担はどうかはわからない
- ・ただ、人が来ることが地域にプラスになるのか、という問題がある。また、交流人口を増やすことに対して、動いているのは高齢者。意欲が低い。そして40代～50代の関心は低く、このような計画があっても実態とのかい離を感じる
- ・全体の動きの中でなにができて、なにができていないのかもわからない

(委員)

- ・(上記は) ボトムアップとトップダウンにはどうしてもかい離が生じてしまい、そのつながり足りないという指摘だと思う
- ・読み物を見せるプロモーションより、動いている人へつなぐプロモーションが必要であり、そのあたりは説明にも出てきたと思う
- ・ただ、そこはプロモーションの部分からつどいの場づくりといったところも必要になっている
- ・このあたりは動かしながら実現していくということではないか
- ・若年層の参画の問題は、子育て・しごとなどが要因であり、どの地域も答えのない、解決が難しい問題となっている

(事務局)

- ・情報を集め、取りに行くのはまさに秘書政策課の役割。ただ、農林商工課との情報共有は行っているところ
- ・シティプロモーションの取り組みでは、地域の魅力、活動、町の施策も含めて地域の人たちが取材し、発信していく組織づくりをしていく。その人材育成と発掘、自主的なweb運営体制づくりを1年かけてやっていく

(委員)

- ・一から人を集めて、同じことをやっていると間に合わない
- ・庁内でも活動に関する十分な情報共有ができていないのでは

(事務局)

- ・これまでの意見は事務局にとって耳の痛い話
- ・昨年の取り組みを通じ、行政の考え方の硬さも感じたところ。例えば住宅の多様化については、アパートやハイツの整備等を検討することとしていたが、利便性が求められる中で一般の若年層をターゲットにすることは難しい。シティプロモーションについても、CMではなく、「おすすめしたい気持ち」を高める取り組みを進める必要があるなどが見えてきた

- ・机上のこととの意見だが、役所にできることはほとんどない。声掛けや旗振りは可能だが、動くことは難しい
- ・例えば、武庫川女子との連携協定は、それによって高齢者の外出支援、健康づくり、つどいの場づくりにつながっていく、アトラインも、アートによって交流が増えていく、(行政の動きは)そういうことなのではと思っている

(委員)

- ・これまで活動している人たちにとっては“同じことをやっている”は、回って上がっていく(スパイラル)のようなものであり、新しい人たちがやっていくためには同じようなことを続けていかざるを得ない、それは変わらないと思う
- ・ただ、町としてはこれまでの活動を共有できる集いの場であったり、今までやってきた記録が参照できるように整備していくことも必要

(委員)

- ・住まいの相談窓口には20~30代の子どもがいる人たちも相談に来ている。共通するのは、今の、ありのままの豊能町でよいということ。車の利用ならば、通勤も便利だとのことであった
- ・また、待機児童0は魅力となっている。そのような情報はインターネットで仕入れている
- ・しかし、家賃の条件が合わずマッチングが成立しなかった。所有者は相場から7万円程度、借主は5万円程度を希望。1~2万円程度でうまくいかない
- ・それならば、その部分を町が支援するということが考えられないか

(委員)

- ・p5~7の情報をいちどA3程度で全体図とし、今の話の内容だけでもまとめていくと政策として整理ができる。ターゲットを子育て中の若年層とすると、その人たちはインターネットで情報を仕入れており、賃借料の需給の乖離があるので、その差を埋めるように、予算配分をしていく、となる
- ・また、40~50代の人たちがfacebookを活用して実績があるとのことなので、そこを活用する方法もある
- ・30年度以降とされている「行動変容の促進」がはじまっている。アクションプランと現実との乖離が生じている。成功事例を紹介してつないでいく、整理するだけでも価値があるのではないか
- ・同じことのくりかえし、は前の活動があるからできること。考え方を前向きにし、その知見を活用して、“第2弾の発射”というかたちで、1歩も2歩も進めることもできるのではないか

(2) 総合戦略にかかる情報共有等

(委員)

- ・子どもの哲学教室は、フランス・パリ周辺の移民の対話の時間としてスタート
- ・そこでは、対話から住んでいるところに興味を持つところに広がり、まちが変わっていくという方向へ
- ・町では昨年10月よりスタート。子どもだけでなく、先生の子どもへのかかわり方も変わりつつあるとのこと
- ・子どもの中にも、これまで言葉にできなかったゆえに手を出していたが、手を出さなくなった、相手の気持ちを聞くようになったなどの変化も出ている
- ・文科省が進めているアクティブラーニングのひとつとして、これが小・中学校に広がっていくとよいと思う

(委員)

- ・子育て支援の充実と教育の質の向上は、まちづくりの観点でなくても進めなければならない
- ・4~5年前から比べると、学力の質が変化していることも確かであり、そこに取り組んでいるところ
- ・町長も「教育力日本一」を目指したいと言われている。それは学力だけというのではなく、気力、体力も含むもの
- ・子育て支援についても、町では新生児のいる家庭に10回程度、保健師等が訪問している。これは小さなまちだからこそできること。いかにアピールできるのかも大切

(委員)

- ・地域を訪れる人が、いいところだ、住んでみたいと言ってくれることがある。吉川は難しいので住宅地を紹介するが、物件につながらないとのこと
- ・町が「空き家」と宣言し、例えば空き家の固定資産税を上げるなどをすればよいのではないか
- ・能勢電鉄のイベント等により、交流、知名度は上がっているのではと思うこともある
- ・一方地域は無関心すぎる。外に向けては良いが、内に向けたプロモーションは時間の無駄ではないか
- ・大阪市内のイベント等ではそもそも知られていない。能勢町と間違えたり、ダイオキシンで知っているといったケースも。一人でも多く、知っているという人を増やしてほしい
- ・あと、山口食品のような企業が前面に出てPRしていくということもよいのではないか

(委員)

- ・志野の里などで、いろいろ現場での課題解決などがされていることは知っている。協力もしているところ。いろいろな活動があることは知っている。そういった人たちの意見を聞くことは簡単だが、きれいごとだけではない部分がある
- ・町の力でグレーの部分を白に変えていくような仕組みがあるとよい。みんな一緒にとというのは難しいことだが、進んでいくためにも、つつこんでいけるところはもっとつつこんでいきたい

(委員)

- ・経営理念の一つとして、地域に「にぎわいを」を掲げている。これは、交流、定住を増やすということ。しかしこれをやったら解決するというのは難しいところ
- ・箕面森町の企業団地、猪名川町のプロロジスなどの雇用環境も生まれつつある。バスなどの端末交通も含めてネットワークの検討に取り組んでいく

(委員)

- ・金融機関では、住宅ローンの部分で手伝いができる。近居に関する利率優遇の制度もあるが、申し込みがほとんどない状況。もっとPRしていきたい

(委員)

- ・シティプロモーションはどこも悩んでいるところ
- ・森町の企業団地はほぼ企業も埋まっており、職員がPR等も行っているところだが、一軒家が多いなか、空き家であっても物件を手放せない、貸せないというところが問題と聞いている
- ・ご指摘のように金額のアンマッチ、ギャップが問題ならば差額を支援ということにもなる。ただ今すぐに助成という形で実現できるかどうかわからない
- ・向井委員、甲田委員にも直接話を聞かせていただき、提案をいただいて、行政ができることは責任をもってあたっていきたい

(委員)

- ・本日も、いろいろと有用な意見が出てきた。会自体を情報共有できるよう場となる。地域との共有を検討していただきたい

(委員)

- ・地域は毎日劣化している。2倍頑張って現状維持ができる状況
- ・無関心の人であっても、無視はできない。協力してもらわなければいけない状況もある